

樹下の二人

高村光太郎

1 みちのくの安達²が原の二本松松の根かたに人立てる見ゆ――

あれが阿多³多羅山⁴、

あの光るのが阿武隈川⁵。

かうやつて言葉すくなくに坐^{すは}つてゐると、
うつとりねむるやうな頭の中に、

ただ遠い世の松風ばかりが薄みどりに吹き渡ります。

この大きな冬のはじめの野山の中に、

あなたと二人静かに燃えて手を組んでゐるよろこびを、

下を見てゐるあの白い雲にかくすのは止^よませう。

あなたは不思議な仙丹⁵を魂の壺^{つぼ}にくゆらせて、

ああ、何といふ幽妙な愛の海ぞこに人を誘ふことか、

ふたり一緒に歩いた十年の季節の展望は、

ただあなたの中に女人の無限を見せるばかり。

無限の境に烟^{けむ}るものこそ、

こんなにも情意に悩む私を清めてくれ、

こんなにも苦渋^{さほや}を身に負ふ私に爽かな若さの泉を注いでくれる、

むしろ魔もののやうに捉へがたい

妙に変幻するものですね。

あれが阿多多羅山、

あの光るのが阿武隈川。

ここはあなたの生^うれたふるさと、

1 みちのく 現在の青森、岩手、宮城、福島各県にまたがる地域。

2 安達が原 福島県安達郡の安達太良山東麓に広がる原野。

3 阿多多羅山 安達太良山のこと。福島県北部にある火山。標高約一七〇メートル。

4 阿武隈川 福島県中部を流れて宮城県に入り、太平洋に注ぐ川。

5 仙丹 服用すると不老不死となり、仙人になるという霊薬。